

## 第5学年〇組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時  
児童数〇〇人 男子〇〇名 女子〇〇名  
授業者

- 1 主題名 謙虚な心で、自分と異なる意見や立場を尊重する  
内容項目（B 相互理解、寛容）
- 2 ねらい 自分と相手の考えや意見が相違した時にどうするかを考えることを通して、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する態度を育てる。  
教材名 友とのトラブル（彩の国の道徳 小学校高学年）

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領のB「主として人との関わりに関すること」の、「相互理解・寛容」の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」に相当する内容である。これは、中学年の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」を受け、中学校の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」につながっていく。

人の考えや意見は実に多様であり、それが豊かな社会をつくる力となっている。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら、高め合う関係を築くことが大切である。その第一歩は、自分の考えや意見を相手に伝えることが大切であると同時に、自分とは異なる意見や立場も、広い心で受けとめて、相手への理解を深めることで、自らを高めていくことが重要である。異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないのである。また、寛容な心をもって、他人の過ちを許すことができるのは、自分も過ちを犯すことがあると自覚しているからである。自分に対して、謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。このように、寛容さと謙虚さが一体のものとなったときに、広い心が生まれ、それは人間関係を円滑にするものとなる。

とりわけ人間は、自分を中心に物を考えたり、自分の立場を守るため、つい他人の過ちを非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れられなかったりものである。しかし、よりよい人間関係を築くためには、自分中心から、相手へと視野を広げ、相手の立場や気持ちを考え、異なった意見に対しても、広い心をもって受け入れることが大切である。また、自分自身の至らなさに目を向け、他人の過ちを許し、相手から学ぼうとする謙虚な姿勢をもつことも大切である。そこで、本時では、自分と異なる意見や考えを相手の立場に立って考えることで、相手に対する見方が変わることや深まることに気付かせたい。また、相手の過ちに対して自分にも同様のことがあるかもしれないと受け止めたり、自分自身の至らなさに気付いたり、相手から学ぼうとしたりする謙虚な姿勢が大切であることも理解させたい。

## (2) 児童の実態について

本学級の児童は、相手のことを考えて行動できる児童が多い反面、自分のことを優先し、自分の都合を友だちに押し付ける児童も少なくない。相手の置かれている状況や、心情を察することが難しい児童もいる。また、携帯電話やインターネットの情報モラルに関してはまだ十分な理解をしているとは言えない児童も少なからずいるのが現状である。

8月下旬に「相互理解・寛容」に関するアンケートを実施した。

以下、アンケートの結果である。

1	友達とけんかしたり、責めてしまったりしたことはありますか。	
2	けんかをしたり、責めてしまったりした人は、その原因は何ですか。	ゲームの取り合い、ゲームをしてのトラブル 嫌なことを言われた 叩かれたり、殴られたり した 物を返してくれなかった ちょっかい 無視された 嫌なあだなを言われた
3	あなたは友達とけんかをしてしまったとき、どのように解決しますか。	謝る、一緒にゲームをして仲直りする 気が付くと仲直りしている 忘れるまで待つ 気持ちの整理をする
4	自分の考えと、相手の考えが違ったとき、あなたはどうしますか。	時間を置く 相手に合わせる 別行動 順番に遊ぶ 相手を説得する 多数決で決める 友達の考えを優先し、その後自分の意見を聞いてもらう

アンケート結果を分析すると、友達とけんかになったことがあったり、責めてしまったりしたことがあるという児童がほとんどであった。その理由は多岐に渡り、言葉の暴力や、ちょっかいを出す、からかうが非常に多かった。トラブルになってしまったときの解決法は謝るという意見と、自然と仲直りしているが多数を占めた。相手と考えが違ってしまったときは、自分の主張よりも相手の意見を尊重するという児童がほとんどであり、相手に合わせてしまうという実態が分かった。

## (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、携帯電話を持ったことによる児童同士のトラブルを扱った教材である。実際このような問題は、児童同士でも起こりうる問題である。この教材を通して、相手の置かれている状況を理解し、自分自身の考えを押し通すのではなく、寛容な心で受け入れる必要があることを理解させる。主人公の加奈が亜由美や唯の置かれている状況を考えず、自分の都合を優先させてしまったことに触れ、なぜ許すことができたのか、なぜ謝ることができたのかを考えさせたい。寛容な態度で亜由美や唯に接することができるようになった加奈がどうして変わることができたのかを感じ取れるようにしたい。

## 4 他の教育活動との関連

名医、順庵（道徳 相互理解、寛容） 宿泊学習（社会・総合的な学習の時間）  
学級や学校の生活作り（学級活動）

## 5 研究主題との関わり

### (1) 子供が考え活躍する授業に向けて（主体的・対話的で深い学び）

① 個別に書く活動を確保し、一人一人に自分の考えを持たせる。

- ② グループや全体で意見を交流したり、話し合ったりすることを通して、考えを広げたり深めたりさせる。
- ③ 全体交流では、児童に立ち止まって考えさせたり、深めたりするために、適宜問い返したり、切り返したりする。(例、友達と考えが違ったとき、相手の考えを受け入れることは本当にできる?)
- ④ 「こころノート」を活用し、各自に考えを書かせ、自分の考えを明確化させる。
- ⑤ 自己の振り返りやこれからのことを考える時間を十分に確保する。(考えよう・振り返り最低10分)そして、一步進んだ自分の意識化へつなげたい。

(2) 丁寧でわかりやすい指導に向けて (ユニバーサルデザイン化)

- ① 場面絵やキーワード等を活用して、人物の状況を短時間で正しく捉えられるようにする。
- ② 発問を精選し、何を考えるのかを焦点化する。(主発問は2つ以内)
- ③ 端的な発問・指示をする。
- ④ 児童の発表内容は必要に応じて補足し、焦点化に努める。
- ⑤ 各自の考えが分かるよう視覚ツールを活用する。(ミニホワイトボードや心情円盤等)

6 学習指導過程

事前学習	「相手を受容できるか」に関する意識調査
------	---------------------

学習活動	主な発問と予想される児童の反応 Ⓢ主発問	支援と指導上の留意点 Ⓢ 主体的・対話的で深い学び Ⓢ 指導のユニバーサルデザイン化	評価の視点と方法
1 導入 (3分) 内容項目を知る	<p>T: 先日行ったアンケート結果です。アンケートを見て、気が付いたことはありますか。</p> <p>C: けんかをしたことがあるはとも多い。</p> <p>C: 原因は些細なことがきっかけになっていることが多い。</p> <p>C: どの子もけんかになったことがあるんだな。</p> <p>C: 色々な原因があって、けんかになったり、人間関係がうまくいかなかったりするんだな。</p>	<p>・事前にとったアンケートの結果を伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>アンケート結果</p> <p>友達とけんかしたり、責めてしまったりしたことはありますか。ある61% 少しある13% ない0%</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ゲームの取り合い、ゲームをしてのトラブル嫌なことを言われた 叩かれたり、殴られたりした 物を返してくれなかった ちょっかい 無視された 嫌なあだ名を言われた</p> </div>	

<p>2 教材の内容を確認する。 (3分)</p>	<p><b>登場人物</b> 加奈・亜由美・唯 ※教材は事前に読んでおく 簡単に確認する。  <b>条件・状況</b> 主人公の加奈は、初めて携帯電話を買ってもらい、父と「大事なことは顔を見て話す」ことを約束する。加奈は唯の都合を考えず、一方的に遊ぶ約束をメールで送る。唯は習い事や手伝いの事情がある中、都合をつけて加奈のところへ来たが、加奈に叱責されてしまう。亜由美も都合をつけて来たことを知り、加奈は考えこんでしまう。</p>		
<p>3 めあてを確認する。(2分)</p>	<p>人と関わるときに大切にしたいことを考えよう</p>		
<p>4 考える (21分)</p>	<p>T: メールを送ったのに、公園で1時間も待っているときの加奈の気持ちは?  C: なぜ来ないんだろう。  C: 遅くなるならメールで連絡をしてくれればいいのに。  C: イライラするし、唯を許せない気持ちになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて携帯電話をもって、うれしい気持ちでいっぱいの子に触れる。</li> <li>・唯からメールの返信はなかったことに触れる。</li> <li>・亜由美も加奈のために、都合をつけて来ていることを押さえる。</li> </ul> <p>㊦場面絵を活用しながら、話の内容を簡潔に押さえる。</p>	
	<p>㊦加奈の行った行動についてどう思いますか。唯に謝るでしょうか。</p>		
<p>(1) 個人で考える (7分)  (2) 小グループで考える (7分)  (3) 全体交流 (7分)</p>	<p>C: 加奈の行った行動について、良くなかったと思う。なぜなら、メールでの約束で、必ず伝わるわけではないから。  C: 亜由美も都合をつけて来てくれていた。相手の都合は全く考えていなかった。  C: メールで大切なことを伝えるのではなく、相手の顔を見て直接伝えることが大事。  C: 自分の気持ちを理解してくれなかった唯を許せないし、謝りたくもない。</p> <p>(加奈が謝ったほうがよいという意見が多かった場合)  T: 1時間も待ったのに謝れるのかな?  T: 唯は連絡することができたんじゃないのかな。  (加奈が悪くないという意見が多かった場合)  T: 加奈はずっとすっきりしない</p>	<p>※心情円盤を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・唯が遅れてしまったのには、習い事や手伝い等の事情があったことを伝える。</li> <li>・亜由美も、やりたい宿題があったのに都合をつけて来てくれたことを押さえる。</li> </ul> <p>㊦小グループでの話し合いの後、全体で確認をすることで自信をもって発表できるようにする。(※距離を取って考えを伝える)  ㊦考えるポイントとして、①加奈が怒っている原因②唯や亜由美の都合を示す。</p> <p>㊦自分の経験などにも触れ、自分ならどうするか考えさせるなど、現実レベルで考えさせるようにする。  ㊦話し合いの途中で、考えが変わってもよいこととし、児童の考えを認める。  ㊦一定の方向性を出すような話し合いでなく、各自の考えに触れ合い、より深く考えるきっかけ</p>	<p><b>評</b>  相手とよりよい関係を築くために、自分なりの意見をもつことができたかどうか。  [こころノート・発言]</p>

5	自分の考え を振り返る (15分)	気持ちだったみたいだけど、 なぜだろう？ T: 唯は忙しかったのに、メール に気づいてすぐ来てくれたよ ね。 T: これから自分が人と関わるとき に、大切にしたいことは何です か？ C: 相手の気持ちや都合を考えて 関わっていきたい。 C: 自分の考えを押し通すと危険 である。 C: 相手と折り合いをつけて生活 していききたい。	とする。 ・合意形成的な言動はしない。	評 広い心で相手 の立場を受け 入れ、相手への 理解を深めて いる学習状況 を把握する。 【こころノート・ 発言】
	6	説話 (1分)	T: 下記説話 ・児童の言葉をすくいあげながら、 相手の立場や状況を考えていけ るという思いをもって終われる ようにする。	

### 教師の説話

相田みつをの「セトモノ」を読み聞かせる。お互いの主張が強すぎると、きっと二人の関係は壊れてしまうということなのかもしれませんね。相手を受け入れるために柔らかい気持ちを持ちたいけれど、なかなかできない、難しいということを相田さんは伝えているのかもしれません。

### 7 評価の視点

【道徳的価値についての理解を自分の関わりで深めている様子】

広い心で相手の立場を受け入れ、相手への理解を深めている。(こころノート・発言)

### 8 板書計画



